

S クリート工法

NETIS 登録番号 :KT-160122-A

技術名称 :S クリート工法

S クリートアップと S クリートガードによりコンクリート内部を改質・強化して遮水層および防水層を形成し、構造物の耐久性を向上させる複合法

S クリート工法は、表面含浸工法に区分されます。表面含浸工法の特長として、少ない工程で短期間にて施工でき、また経年後の再施工も容易であるという点が挙げられます。S クリート工法はこの表面含浸工法ならではの特長をさらに拡張した工法です。

S クリート工法の施工手順は非常に簡便で、特殊な器具や設備を必要とせず、現場環境を問わずに適用可能です。

S クリート工法は、(A) S クリートアップ (ケイ酸塩系) と (B) S クリートガード (シラン・シロキサン系) という 2 種類の表面含浸材を重ね塗りする複合的な工法です。どちらの製品も単体での使用が可能ですが、2 種類の表面含浸材を複合的に組み合わせることで両製品の特性を最大限に引き出します。

S クリート工法の主な効果

- ①コンクリート構造物の遮水・防水
- ②鉄筋の防錆
- ③塩害抑制
- ④凍害抑制
- ⑤エフロ抑制
- ⑥アルカリ骨材反応抑制
- ⑦中性化抑制
- ⑧防汚、防カビ、防藻

S クリートアップの特長と効果

コンクリート内部に深く浸透し、コンクリート内部の微孔空隙を充填し緻密化。アルカリ性回復効果をもたらし中性化を抑制。ひび割れの発生や進行拡大を抑制します。

S クリートガードの特長と効果

コンクリート内部に浸透した成分が改質層と超撥水層からなる遮水層を形成。水や塩化物イオンなどの劣化原因物質の進入を強固に抑制。浸透深さに優れます。

*浸透深さや超撥水層の厚さは塗布対象となる素地の状態によって異なります。

床版防水を目的とした S クリート工法の導入事例



S クリートアップの塗布



S クリートガードの塗布

施工方法

(S クリートアップと S クリートガードの重ね塗りによる複合法)

- 1 下地処理
 - ・コンクリート表面のレイトランス、塩分、煤やその他の塵埃や既設塗膜などは高圧洗浄機やサンダーディスクや洗剤などを用いて十分に除去する。
 - ・コンクリート構造物にジャンカ、ひび割れ、漏水などの施工不良の部分があり断面修復する必要がある場合には、断面修復の前に S クリートアップを 0.25 リットル / m² を塗布してから補修を行う。ひび割れおよび断面修復用として「S クリートクラック」を推奨致します。
- 2 養生
 - ・塗布施工面以外の部分には、テープ、ポリエチレンフィルムやビニールシートで覆い、含浸材の飛散防止や付着防止の養生を行う。
- 3 S クリートアップ (ケイ酸塩系) の塗布
 - ・S クリートアップを使用する前によく攪拌する。
 - ・塗布方法としては、ウーローラー、噴霧器または刷毛などを用いる。
 - ・S クリートアップを 0.15 リットル / m² を均一に塗布する。
- 4 乾燥養生
 - ・塗布施工後は、概ね 24 時間以上乾燥養生を行う。工程に余裕の有る場合、3~4日以上養生してください。
 - ・降雨の恐れがある場合には、施工面をビニールシート等で養生する。
- 5 S クリートガード (シラン・シロキサン系) の塗布
 - ・S クリートガードを使用する前によく攪拌する。
 - ・塗布方法としては、ウーローラー、噴霧器または刷毛などを用いる。
 - ・S クリートガードを 0.2 リットル / m² を均一に塗布する。
- 6 養生
 - ・塗布施工後、降雨の恐れがある場合には、施工面をビニールシート等で養生する。
- 7 片付け・清掃
 - ・ポリエチレンフィルムやビニールシート等の養生を撤去する。
 - ・使用資機材を片付ける。

※使用目的や用途に合わせて S クリートアップと S クリートガードをそれぞれ単独で使用することができます。

コンクリートの延命化を実現。

お問い合わせは下記販売代理店まで

共同開発・販売元

株式会社バークス環境

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-14-13-302

TEL: 03-5794-3933 FAX: 03-5794-3934 email:bircs@bircs-kankyo.com

<http://www.bircs-kankyo.com>